

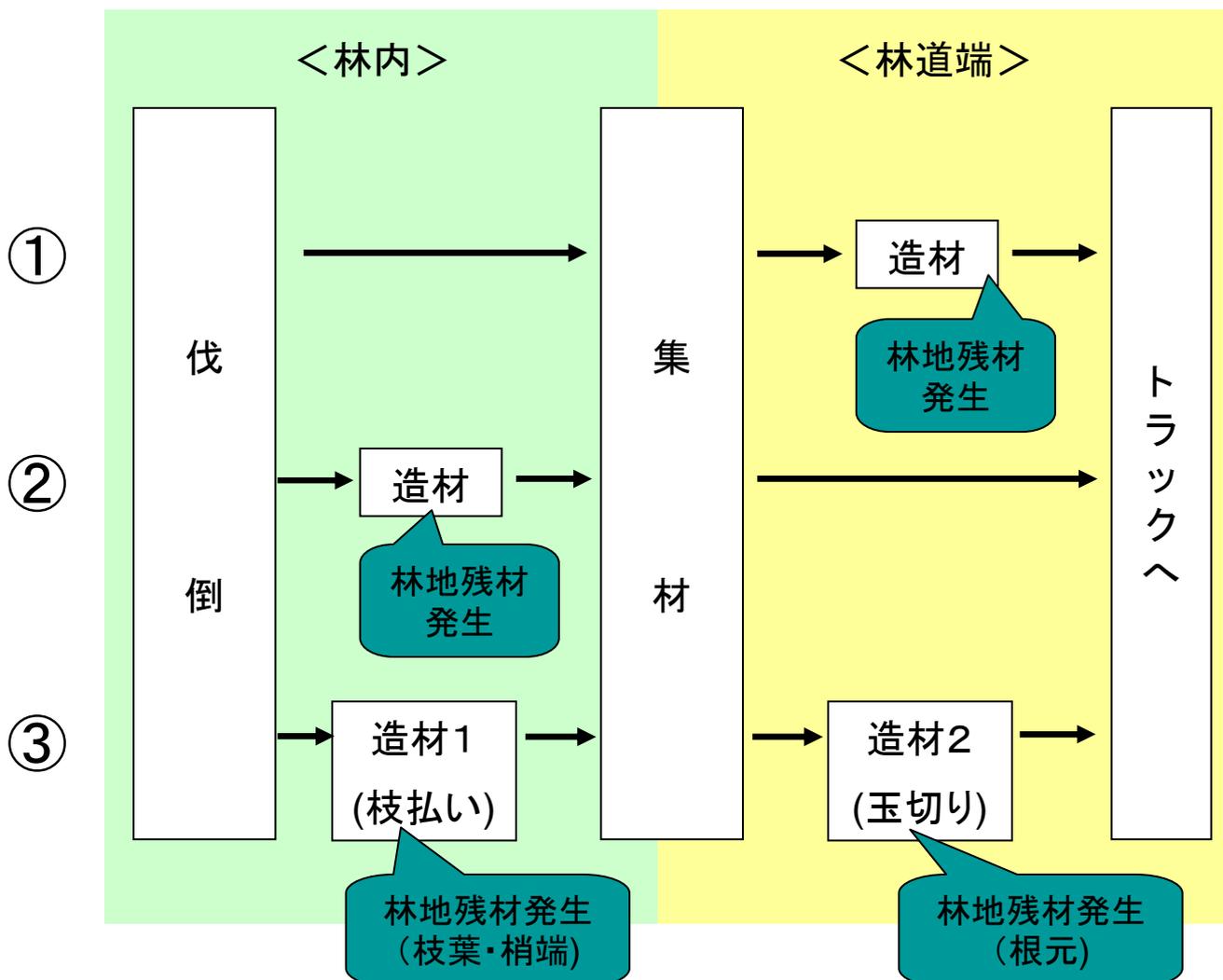
素材生産の作業システム別 林地残材発生場所の整理

- 素材生産は、伐倒・集材・造材(枝払い、玉切り)の3工程からなる。
- 造材を林内、林道端、あるいは両方で行う場合によって、以下の3通りに区分される。

- ①「伐倒・集材・造材」型 ……全木集材
- ②「伐倒・造材・集材」型 ……短木集材、短幹集材
- ③「伐倒・造材(枝払い)・集材・造材(玉切り)」型 ……全幹集材

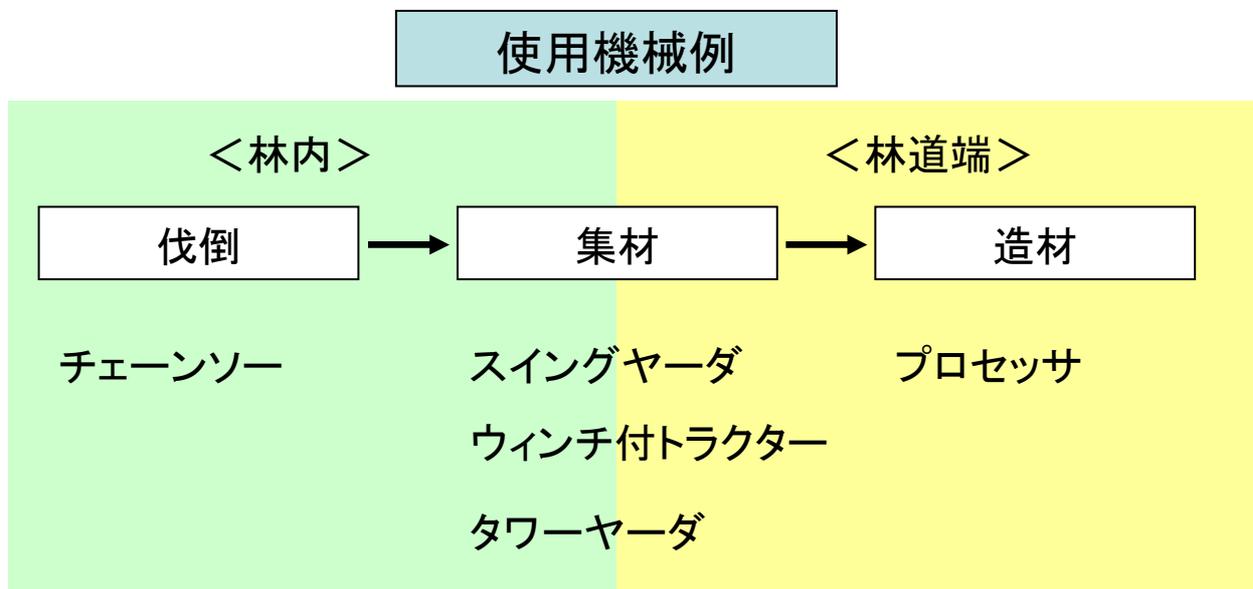
- 林地残材の発生場所は、①は林道端、②および③は林内である。

※ここでの「林地残材」とは、枝葉・梢端(根元も含む)を指す。



①「伐倒・集材・造材」型

- 主に傾斜地において採用される作業システムである。
- 日本では、スイングヤーダを用いた列状間伐が行われている。
- 海外では、オーストリアやドイツ等において、タワーヤーダを用いた架線集材やウィンチ付トラクターによる集材が行われている。



チップ生産について

•移動式チップパー(破砕機)を用い、林道端もしくは中間土場で林地残材を破砕して、チップをトラックに積み輸送するシステムが、欧州で多く採用されている。

•林地残材の輸送距離が30km以下の場合には中間土場までそのまま輸送し、30km以上になる場合は林道端でチップ化する。(2010/8/30 フィンランド VTTヒアリングより)

移動式チップパーを用いた作業システム

